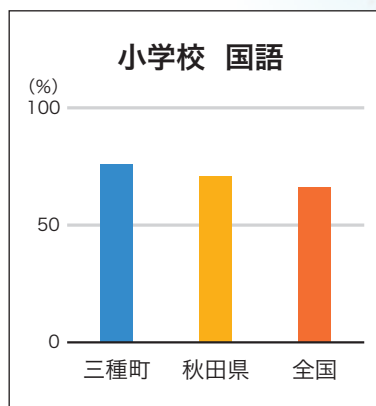
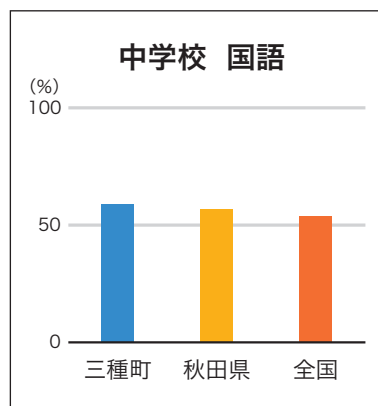


令和7年度「全国学力・学習状況調査」について

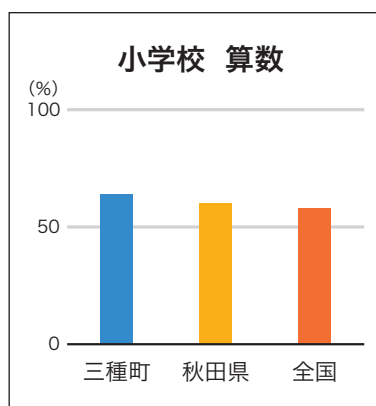
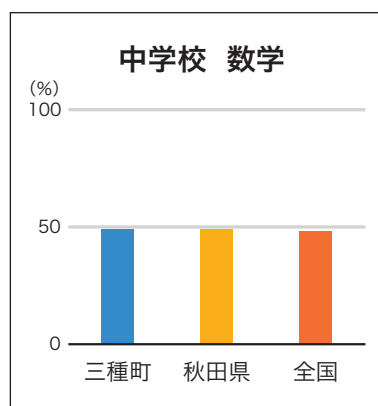
4月17日実施



本町の小・中学校全体では、全ての教科で県平均を上回っており、良好な結果でした。
今回調査した内容（学習指導要領）の中で、三種町の小学生が優

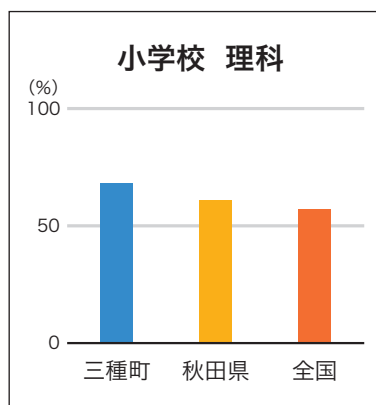
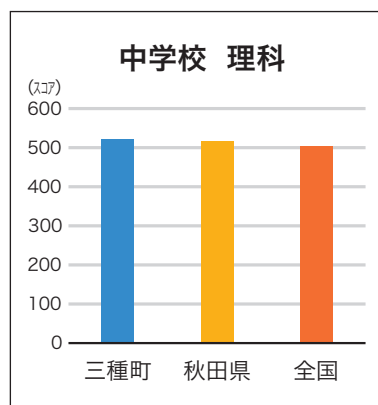
児童生徒の学習状況について

4月17日に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。本調査は、小学校6年生と中学校3年生を対象とし、国語、算数・数学、理科の学力と、生活や学習習慣等に関する調査が行われました。



生活・学習習慣等に関する調査について
各調査項目において良好な状況でした。

課題に関しては、特に中学生の数学で「図形」分野が全国や秋田県の平均を下回る結果となりました。これについて、国語では「話すこと・聞くこと」、算数では「図形」、理科では「地球を柱とする領域」でした。中学生が優れている点は、国語では「書くこと」、数学では「関数」でした。



「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対しては、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合が小・中学校において全国・県平均を大きく上回りました。
一方で、全国的にも同じ傾向ですが、経年比較すると、学校以外での勉強時間は、小中学校とも減少傾向にあるという問題点が見えてきました。今後、基本的な生活習慣（朝食や就寝時刻）を整えながら、家庭での上手な時間の使い方についても注視していきたいと考えています。

